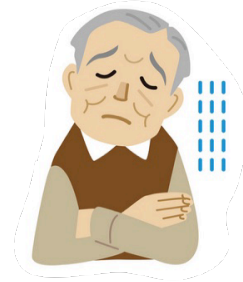


伍 職 考(ひとりごと)

「じゅーしょく、なんかええこと(良い事)

ないかねえ?」と近頃お参り先で時々聞かれます…。ほんとにそうですね…。私も疲れていたり、元気が出ない時には「はあ…なんか良い事ないかなあ…」と思う事があります。そんな時は「じゃあ何が起こったら良い事なんだ? 自分はいったい何を欲しがっているんだ?」と、自問してみます。



すると、考えているうちに、だんだんと具体的に心の中が見えてきて、自分でも気がついていなかった不満や欲求、元気が出ない原因に気付ける時があります。

「そうか、これが元気が出ない原因だったのか」とわかると、状況や現実は何も変わらなくても、なぜか少しだけ心がスッキリすることがあります。

コロナウィルス発症以来、いろんなことを制限されて、ワクワクすることや日常のちょっとした楽しみまで失われ、マスクをして外出するのも億劫で、なんだか鬱々とした日々になってしまいましたね。

これが『ウィズコロナ』『新しい生活様式』なのでしょうか・・・?よくわかりませんが、でも、いつの日かきっと、今年のコロナウィルス騒動を思い出して「あの時はたいへんだったね～」なんて話をする時が来るのでしょうか。そして未来には「コロナウィルスってなに?」と、知らない世代も出てくるのでしょうか。私たちも、過去の出来事をそうやって記憶したり、忘れたり、歴史として学んできたように…。まあもちろん、その時に私が生きていれば、の話なんですけどね…。

諸行無常、私たちみんな、いつどうなるかわからない毎日を生きている身です。コロナウィルスに感染しなくても、他の病気や事故や事件、自然災害によっても、いつどうなるかわかりません…。でも、間違いなく今日は、今、ここに生きているのですから、「なんか良いことないかなあ…」と求めてしまう時には、ちょっとだけ自分自身の心に向き合ってみるのも良いかもしれません。または、どんなことでも良いと思うので、これまでやったことのない新しい事や、昔やっていたことにほんの少し勇気を出してやってみるのも良いかもしれません。

せっかく今日という一日を生きているのですからね…。

さて、ココから先、ちょっと訳がわからない「独り言」になるかもしれませんが・・・あしからず。

昨今「グレートリセット」や「ニューノーマル」ということが言われています。またカタカナか…、と思われるかもしれませんが、意味そのものは簡単です。(グレートリセット = すごく大きなやり直し)(ニューノーマル = 新しい常識や標準)

今回のコロナウィルスをきっかけに社会や経済活動、生活、教育、常識、習慣などすべてがリセットされるというのです。日本においては、もしかすると江戸から明治への大転換ほどの、大きなリセットになるかも…。

「住職、何言ってるの？そんなバカな！」と思われるかもしれませんが…。きっと数年の間に劇的に変化していきだろうと、私は思っています。

こんな話をすると、「もうついていけない…。早くお迎えが来てほしい」とおっしゃる方もいますが…、ご年輩の方は昭和の終戦後に、大きなリセットを経験されて、当時の混乱や戸惑い、不安の記憶が蘇ってしまうのかもしれないね。江戸から明治へと変わった当時も、ご年輩の方はさぞかし混乱し、寂しさや不安を抱えていたのではないかと想像します。「ざんぎり頭を叩いてみれば、文明開化の音がする」と、文化文明の近代化・欧米化を喜んでいたのは、若い人たちだけだったのかもしれない…。

エネルギー溢れる若い人たちは時代の変化を喜んで受け入れていくのでしょうし、私のような中年世代は…、必死に時代に順応しなくてはなりません。そして、次世代の人たちのためにも、未来を創造していかねばなりません。

これからは、ロボットや人工知能が人間の代わりに仕事をするのが当たり前となる時代です。それがウィルスの感染予防にもつながるのであれば、なおさらです…。

そんな時代に、人間だからこそできることとは？人間にしかできないことは何か…？について、考えていかななくてはならないと思うのですが…はてさて…、いったいどうすれば良いやら…？何をすれば良いのやら…？さっぱり見当もつかないのですが…。ふと、思い出したことがあります。

それは、「守・破・離」ということです。

「シュ・ハ・リ」と読みます。茶道や武道、芸能の世界で聞かれた事があるかもしれません。元は千利休さんの「規矩(きく)作法 守り尽くして破るとも離るとても本を忘るな」という言葉だそうです。

(千利休さんは、武器の売買をして富を築いたそうなので個人的にはあまり好きではありませんが…)



守…師匠から教わった「型」を徹底的に忠実に守る。

破…その「型」を身につけた上で、型を破っていく。

離…その「型」の本質をよく見極め、「型」を離れ、

「型」の本質を貫く新たな「形」を創造していく。

落語に喩えるなら、

守=古典落語を「型」どおり徹底的に忠実に噺す。

破=古典落語に自分流のアレンジを加えて表現する。

離=まったく新しい「形」の創作落語を噺す。

と言えるかと思いますが…、いかがでしょうか？

「つべこべ言わずに、やれ！」と言われ、教えられた「型」を守って「型」が身につけて、自分のものになってようやく、自分なりの表現やアレンジをすることが許され、「型」を破ることができるのです。こうしてみたらどうか？こうした方が良くないか？と、自分の考えを試して挑戦し、試行錯誤して「型」を破り、さらにまったく新しいオリジナルの形を創造する挑戦、「離」が始まるのです。そして、新しい形を生み出そうとする中で、あらためて、かつて師匠から教えられたことの、深い意味を理解したり、「型」の本質を再確認していくのでしょ。

こういった過程、地道な努力と試行錯誤、歩みがあってようやく、「その道のプロ」と呼ばれる人として一人前になっていくのだと思います。現代においてはすっかり忘れ去られて、理解すら得られないかもしれませんが…。これは、茶道や武道、芸能のみならず、芸術、大工さんのような職人の世界でも、ビジネス、スポーツなど、どんな世界にも通じることであり、これからの時代ますます「その道のプロ」として生き残るのに大事なことだと思います。

また、「守・破・離」という歩みの積み重ねが「道」となり、その歩みが人を育み、人を成長させ、そして人生に自信と幸福をもたらすのだと思います。

たとえ道半ばで目を閉じることになろうと、そういう道を歩んだのだ、そうい

う人生だったのだと納得できる自信と幸福です。

これはロボットや人工知能にはできないことです。いや、できないというより必要ないのでしょう。幸福を求めたりしませんからね…。

けれども人間はどうしたって幸福を求めます。過去を振り返り、出会った人を思い出し、自分のしてきたことを省みて、人生の意義を問わずにはいられません。「いったい私の人生、何だったのだろうか？」と…。そこに「道」という歩みが問われてきます。老いも若いも、「諸行無常」のいのちです。老いも若いも、「明日をも知れぬ我が身」です。歩まれた人生や仕事について、「私の道とは？」「私の守・破・離は？」と、一度立ち止まって考察されてみてはいかがでしょうか？

「諸行無常」とは、「すべては変化し続け、永遠に止まるものはない」ですから、社会が変化するのも自然のことです。社会がどう変化しようと、何も恐れることはなく、心配も不安も混乱する必要もない。

ただ、一日一日を「今日も有難い一日を過ごせた」と喜び、「その時」が来たら風に身を任せて散っていく。それが『諸行無常』という道理であると…。

もう少しポジティブに考えるなら、朝目が覚めたら「新しい朝が来た！昨日とは違う、今日という特別な一日が始まった！夜まで何があるかわからないけど、新しいいのちを生きよう！」と、毎日毎日、同じような日々に思えても、実はまったく異なる別の一日であり、毎日が特別なんだと考えてみてはいかがでしょうか。

ご先祖さまや今日の日本を創られた先人・先達の方々、私を育ててくださった方々、お世話になった人や未来に待っている人たちがいます。そういった方々から、「ぼーっと生きてんじゃねーよ！」と言われないように、今日、この一日一日を生きたいですね…。

最後に、私の「型破り」の歩みの一つとして、法事や葬儀の場で読んでいる絵本から、たいせつな教えをご紹介します。終わりたいと思います。

まだ経験したことがないことは
こわいと思うものだ。でも考えてごらん。
世界は変化しつづけているんだ。

変化しないものは ひとつもないんだよ。
春が来て夏になり秋になる。
葉っぱは緑から紅葉して散る。
変化するって自然なことなんだ。
きみは春が夏になるとき こわかったかい？
緑から紅葉するとき こわくなかったろう？
ぼくたちも変化しつづけているんだ。
死ぬというのも 変わることの一つなのだよ。
『葉っぱのフレディ』（童話屋）

住職 釋 健雄